

STOP!子供の火遊び



ライターによる火災・事故から子供を守ろう！

幼い子供のいる家庭での注意事項

- (1) 子供の手の届くところにライターを置かない！
- (2) 子供にライターを触らせない！
- (3) 子供がライターで火遊びをしているのを見かけたら、すぐに注意してやめさせる！
- (4) 理解できる年齢になったら、子供に火の怖さを教える。

「火遊びによる火災」(発火源がライターの火災)に関する実態調査



「火遊びによる火災」の出火原因の50%以上が「ライター」でした。(H11～20年・全国)

平成16年から20年にかけて、政令指定都市では、「火遊びによる火災」のうち、出火原因がライターであるものが約1,300件発生し、そのうち約500件以上が12歳以下の子供によるものでした。出火原因が判明したライターは、約90%が「使い捨て式」でした。

「火遊びによる火災」のうち、出火原因が「ライター」の火災の死傷者発生率

(H16～20政令指定都市(12歳以下))

行為者年齢	件数[件]	死者数[人]	負傷者数[人]	死傷者の発生率[注1]
5歳未満	107	1	73	69.2%
5歳以上12歳以下	419	77	72	18.9%
合計	526	8	145	29.1%

全年齢での総件数は1,319件

「ライター」で、こんな火災事例も！

乗用車の運転席を後ろに下げた際、座席のレールに挟まっていたライターの着火スイッチが押されて火災となった。

車内のグローブボックス内に入れていたライターが、ボックスを閉めた際、着火スイッチが荷物に押されて火災となった。

飲食店の倉庫の木製棚に放置してあったライターの上に、衣服を入れたプラスチックケースを置いた際、ライターの着火スイッチが押されて棚やケースが燃えた。

電子レンジの上においてライターが、弾みで電子レンジの中に落ち、それを知らないまま電子レンジを使用したため、ライターのガスが噴出して火災となった。

ゴミ収集車の中で、ゴミを圧縮する際、他のゴミによりライターのスイッチが押されて火災となった。

